



## 大原美術館後援会会報

# 丸窓

[第31号] 令和7年1月

### 《掲載情報》

- ・大原美術館展示情報
- ・研究部、事業部より
- ・大原美術館後援会より など

発行：大原美術館後援会事務局

## 大原美術館 現在の企画展について

コレクションによる企画展「OHARAコレクション・ハイライト 収集の軌跡：絵画・彫刻編」のご紹介

研究員・学芸員 大塚 優美



現在、大原美術館の本館すべてを使って、企画展「OHARAコレクション・ハイライト 収集の軌跡：絵画・彫刻編」を行っております。

本展は、もうすぐ百寿を迎えようとする当館の歴史を「作品収集」の面から紐解いていく試みであり、コレクション第一号となったエドモン＝フランソワ・アマン＝ジャン《髪》(1912年頃)から始まります。本作は、児島虎次郎が大原孫三郎へ最初に購入を依頼した作品です。今回はその「購入依頼の書簡」も資料として展示しております。小さな手紙の中に込められた児島の熱い思いを、ぜひ味わっていただけましたら幸いです。

このように、本展では、購入時の書簡や領収書、当時の様子を示す写真などの資料も交えることで、作品収集という「コレクションづくり」の物語を、そしてその中に息づく人間ドラマや時代の空気を、数々の名品とともに体感していただけるようになっていきます。また、作品は収集された時期に沿って、大きく4つに分けて展示されていますので、お馴染みの作品たちが「いつ倉敷にきたのか?」という視点から見ていただくのも面白いかもしれません。大原美術館の核となる「OHARAコレクション」が、いかにして生まれ、受け継がれてきたのか、そして、今後どのように展開していくのかを、ぜひ会場にてご覧ください。



本館入口の企画展看板



展示風景

## 大原芸術研究所 研究部より

中之島香雪美術館での展覧会について

研究部部長 孝岡 睦子



中之島香雪美術館 展覧会チラシ

和の中之島香雪美術館でウォーホル!?

2024年の夏、中之島香雪美術館の方々が意見交換のために来館されました。同時に開催中であった特別展「異文化は共鳴するのか? 大原コレクションでひらく近代への扉」も見学。その帰り際に、学芸部長の有木さんから「この冬にうちで大原コレクションによる展覧会開催をお願いできる可能性はありますか?」との言葉を受けたのです。同館の常設展示である茶室「中之島 玄庵」を、さらに展示空間として積極的に有効活用したい、との方針の変更で休館予定であった期間に、急遽、展覧会を開催する必要が生じたとのことでした。

この突然すぎるストーリーから生み出されたのが特別展「大原美術館所蔵 20世紀美術の巨匠たち♡ウォーホル、ロスコ、リキテンstein」(4月6日まで開催)。ひとつの展覧会を作り上げるには準備期間があまりにも短い…にもかかわらず、茶室のイヴ・クライン、薬師如来立像とマーク・ロスコのコラボレーションなど、私たちにとってお馴染みの作品にこれまで見たことがないような魅力を見出せるものとなっています。有木さん曰く「異文化は共鳴するのか? もちろん、本展は大原コレクションと中之島香雪美術館の共鳴です」。このわくわくするような稀有な共鳴をどうかお見逃しなく!



### 大原美術館とサンヨープレジャーグループの連携

マーケティング課課長 竹本 暢子



大原美術館パビリオン



館内でのワークショップの様子①



館内でのワークショップの様子②

2021年7月に、大原美術館はおもちゃ王国を運営するサンヨープレジャーグループと包括連携協定を締結しました。同年11月には、おもちゃ王国(岡山県玉野市)内に大原美術館サテライトパビリオン「大原こども美術館」がオープン。ここでは、大原美術館所蔵作品のパズルや作品解説が聞けるバーチャル展示室、作品になりきって写真撮影ができるフォトスポットなど、子どもから大人までアートを身近に感じられる工夫を凝らした施設となっています。また、大原美術館の職員が出張して行うワークショップも人気です。「ファラオの王冠づくり」や「アートのぼり人形」、「アートぶんぶんゴマ」などのプログラムを通じて、色や形の不思議に触れながら、子どもたちの想像力や創造力を育むことを目指しています。

さらに近年では、閉館後におもちゃ王国のスタッフが案内する「親子鑑賞ツアー」を実施しています。本館内で作品鑑賞やお絵かきプログラムを行い、子どもたちは好きな作品を選んで保護者と語り合いながら作品の前で絵を描きます。最後には参加者全員で感想を共有し合い、充実した時間を過ごしています。

これらの取り組みを通じて、楽しみながらアートや美術館に触れることで、子どもたちが豊かな心を育む一助となればと考えています。大原美術館とおもちゃ王国は、共に子どもの創造力を育む場としての共通点があります。また、小さな子どもがいるために美術館来館をためらう保護者にも、こうしたイベントが美術館を知るきっかけとなり、家族で気軽に訪れる機会を提供できれば幸いです。

### 大原芸術研究所 研究部(教育普及チーム)より



#### 学校まると美術館について

研究員・エドゥケーター 寺元 静香

今年で26年目を迎える「学校まると美術館」。今年度も、先生方のアイデアあふれる素晴らしい授業が、美術館の展示室で行われました！「学校まると美術館」は、大原美術館の近くにある倉敷東小学校と倉敷西小学校の全校児童が、休館日を利用して展示室を教室に見立て、特別な授業を体験する取り組みです。

普段は教室で過ごしている子どもたちが、美術館ならではの空間で授業を受けることで、新しい発見や体験に出会っています。授業の内容は学年ごとに工夫がいっぱい。たとえば、パズルや絵探しを通して作品に親しんだり、「教室に飾るならどの作品がいい？」といったテーマで自由に作品を選び鑑賞したりと、子どもたちの想像力を引き出す活動が行われました。中でも印象的だったのは6年生の授業です。静かな展示室で、1つの作品と向き合いながら模写に挑戦。小学校生活の締めくくりとして、丁寧に作品に向き合う姿はとても感動的でした。

私たちは、子どもたちが安心して想像力を広げたり創造を楽しんだりできる場所を提供し続けたいと思っています。また、地域とともに歩みながら、より親しみやすい美術館を目指して活動を続けてまいります。



作品と同じポーズをしてみる様子



作品を模写する様子

### 表紙の作品

この作品は、2025年4月3日にグランドオープン  
の児島虎次郎記念館にて展示予定



2025年は巳年! 🐍

エジプト  
《コブラ形護符》

毒をもつコブラは人間にとって恐ろしい存在だが、逆にコブラを人間の味方することで、人間を守ってもらおうとした。コブラ形の護符は外敵や厄災を撃退するために身に着けた。本品は上下エジプトの王の象徴物である二重冠をかぶったコブラとして表現されている。

山花京子「作品解説:エジプト《コブラ形護符》」『はじまり、美の饗宴 すばらしき大原美術館コレクション』展図録、2016年、54頁より転載。

### 大原美術館後援会 松井えり菜会長より



大原美術館後援会の皆様、寒中見舞い申し上げます。

皆様、大原詣は、もう行かれましたか？我が家では、大原美術館が元旦から開館していると知って以来、神社への初詣に合わせ、家族の一大行事となっております。最初はベビーカーで運ばれるだけだった息子も6歳となりました。最近では、絵の前で感想を話すようになり、吉原治良の《白い円》の前で友達と「目玉!」「ドーナツよ!」と議論していました。昨年10月に、大原芸術研究所所長の高階秀爾先生がお亡くなりになりました。2002年の館長就任以来、大原美術館の伝統を守りながらも新しいことに挑戦する姿勢は、美術館に新しい風を吹き込んでいただきました。改めて、先生に深く感謝するとともに、心より冥福をお祈りいたします。新年を迎え、これからの子どもたちの世代にも大原美術館がいつまでも新鮮な感動を届ける美術館でありますように。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



「みんなのマイミュージアム基金」への多くのご寄付いただき誠にありがとうございました。引き続きご支援の程よろしく願い申し上げます。

「みんなのマイミュージアム基金」の情報はこちらから▶

大原美術館後援会事務局 〒710-8575 岡山県倉敷市中央1-1-15

TEL (086) 422-0005 FAX (086) 427-3677 <https://www.ohara.or.jp/>

